



地球温暖化交渉セミナー

# これまでの国連気候変動交渉

WWFジャパン  
気候変動・エネルギーグループ リーダー  
山岸 尚之

2015年7月2日（木）



## 本日の概要

---

1. これまでの交渉
2. 直近の交渉状況
3. INDCについて



# 1. これまでの交渉

---

– 1992年から現在まで



# 1992年から始まった国連での取り組み



2008-2012  
第1約束期間

2009

COP15・COP/MOP5  
(コペンハーゲン会議)  
コペンハーゲン合意の  
「留意 (take note)」

1992

地球サミット  
国連気候変動枠組条約  
(UNFCCC)

1997

COP3  
京都議定書





# ダーバンから始まった仕切り直しの交渉



2020

新枠組みの開始？

2015

パリ合意  
新しい国際枠組み？

2012-2015

“ダーバン・プラットフォーム”  
での交渉 → “ADP”の誕生

2011

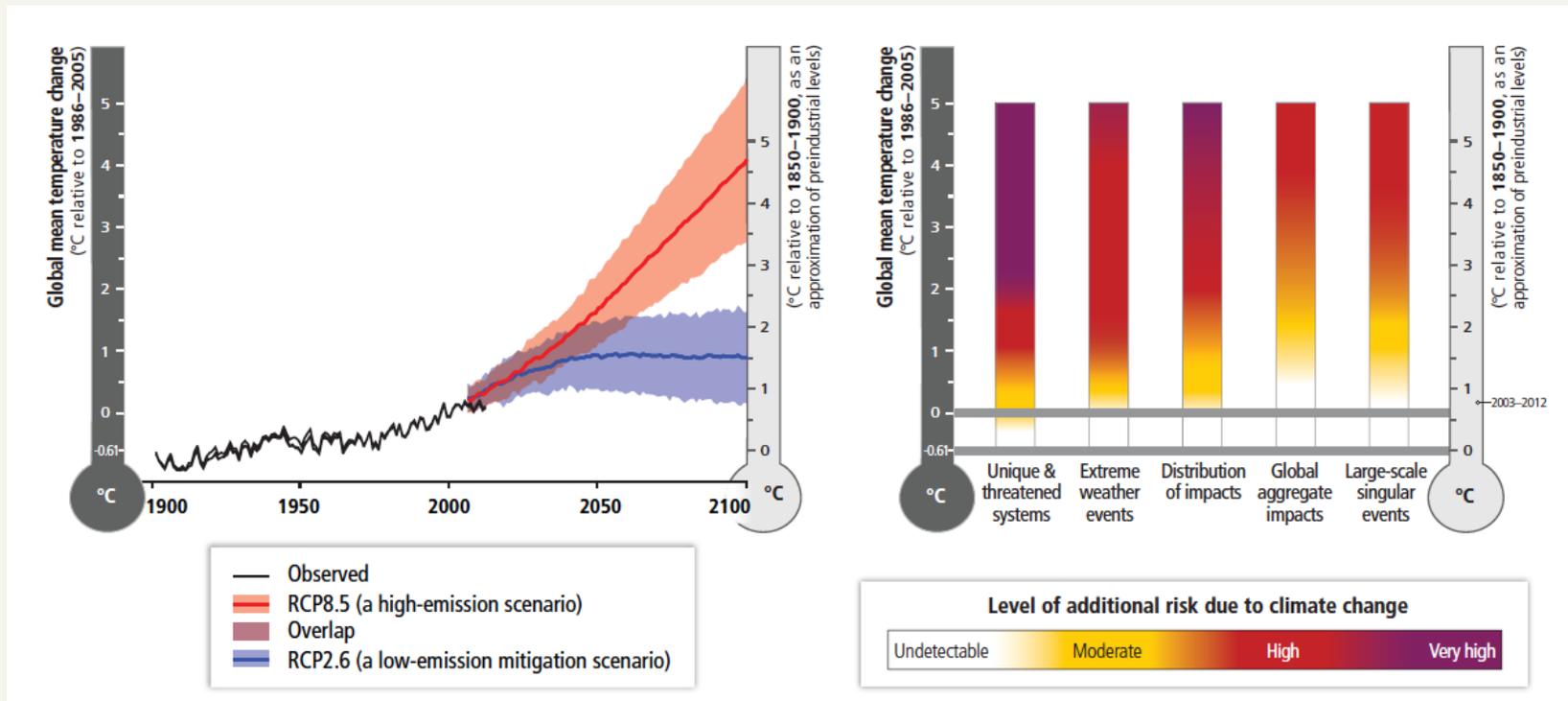
COP17・COP/MOP7  
ダーバン合意





# 全体として「2°C未満」目標

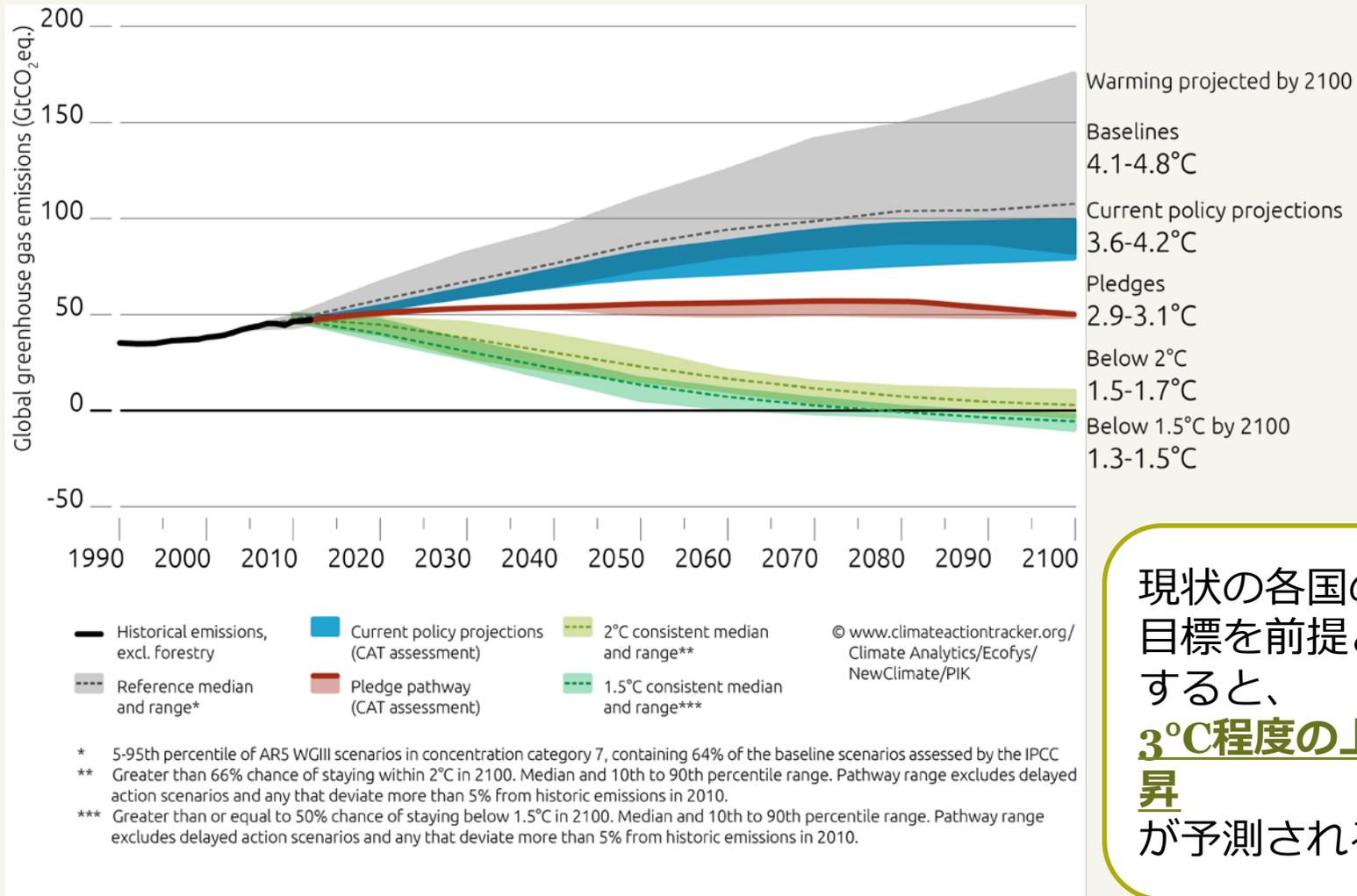
## IPCC AR5 WG II SPM: Assessment Box SPM.1 Figure 1



- 頑張ってCO<sub>2</sub>を削減するシナリオで2°C。  
このままいって4°Cの上昇（産業革命前と比較して）。
- 2°Cと4°Cの間では、影響に大きな差があることが知られている。



# このままでは達成できない

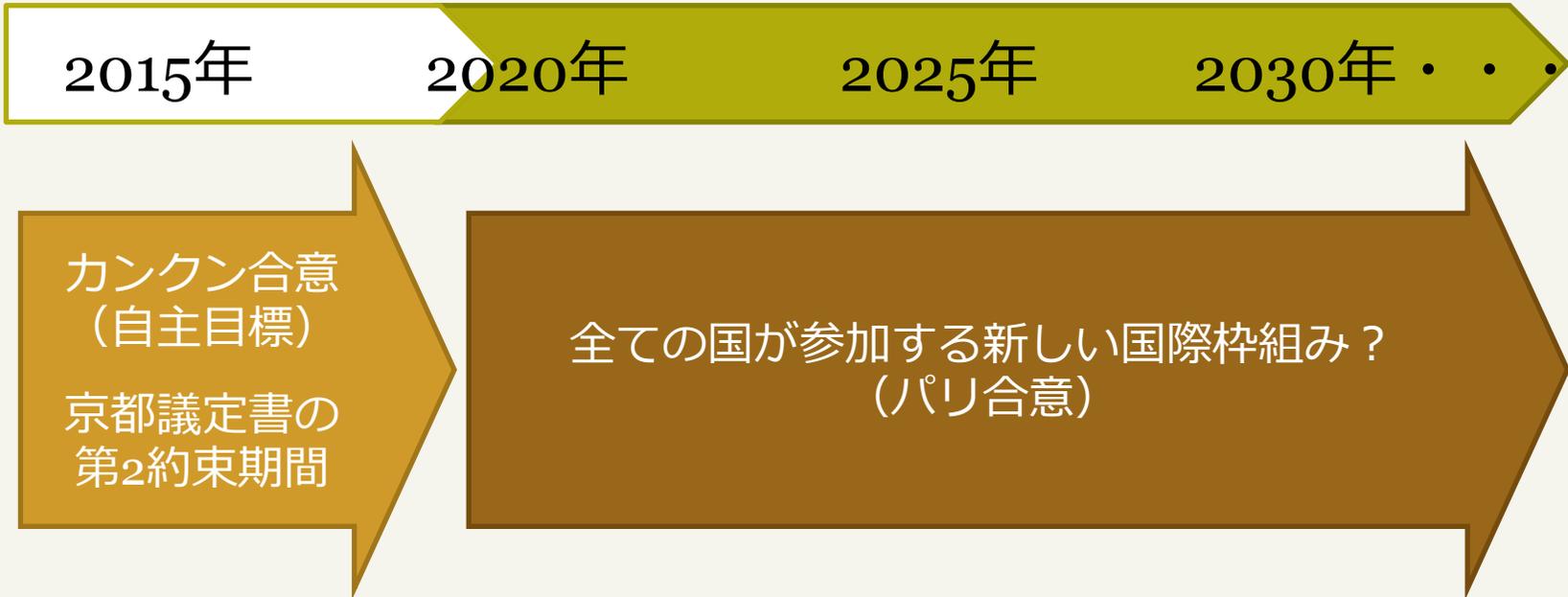


現状の各国の  
目標を前提と  
すると、  
**3°C程度の上  
昇**  
が予測される。



# 今の国際的な気候変動対策の体制と交渉論点の対応

国際体制



交渉論点

ワークストリーム2	ワークストリーム1
<u>Pre-2020</u> 「ギャップ」を埋める	<u>Post-2020</u> 新しい国際枠組の構築



## 2. 直近の交渉論点

---

– COP20とADP2.8



# 直近の交渉論点

	2015年	2020年	2025年	2030年・・・
	ワークストリーム2		ワークストリーム1	
	<u>Pre-2020</u>		<u>Post-2020</u>	
	「ギャップ」縮小		新しい国際枠組の構築	
ADP	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 専門家会合 (TEMs; Technical Expert Meetings) (Technical Examination Process)</li> <li>• 目標引き上げ?</li> </ul>		「交渉テキスト」 (ジュネーブ・テキスト) INDC (国別目標案)	
SBS	市場メカニズムに関する議論 等			



INDC ?

# INDC

本決まり  
ではない  
「案」

各国が  
国内プロセス  
で決める

Commitments  
と Action の  
間をとって

Intended

Nationally Determined

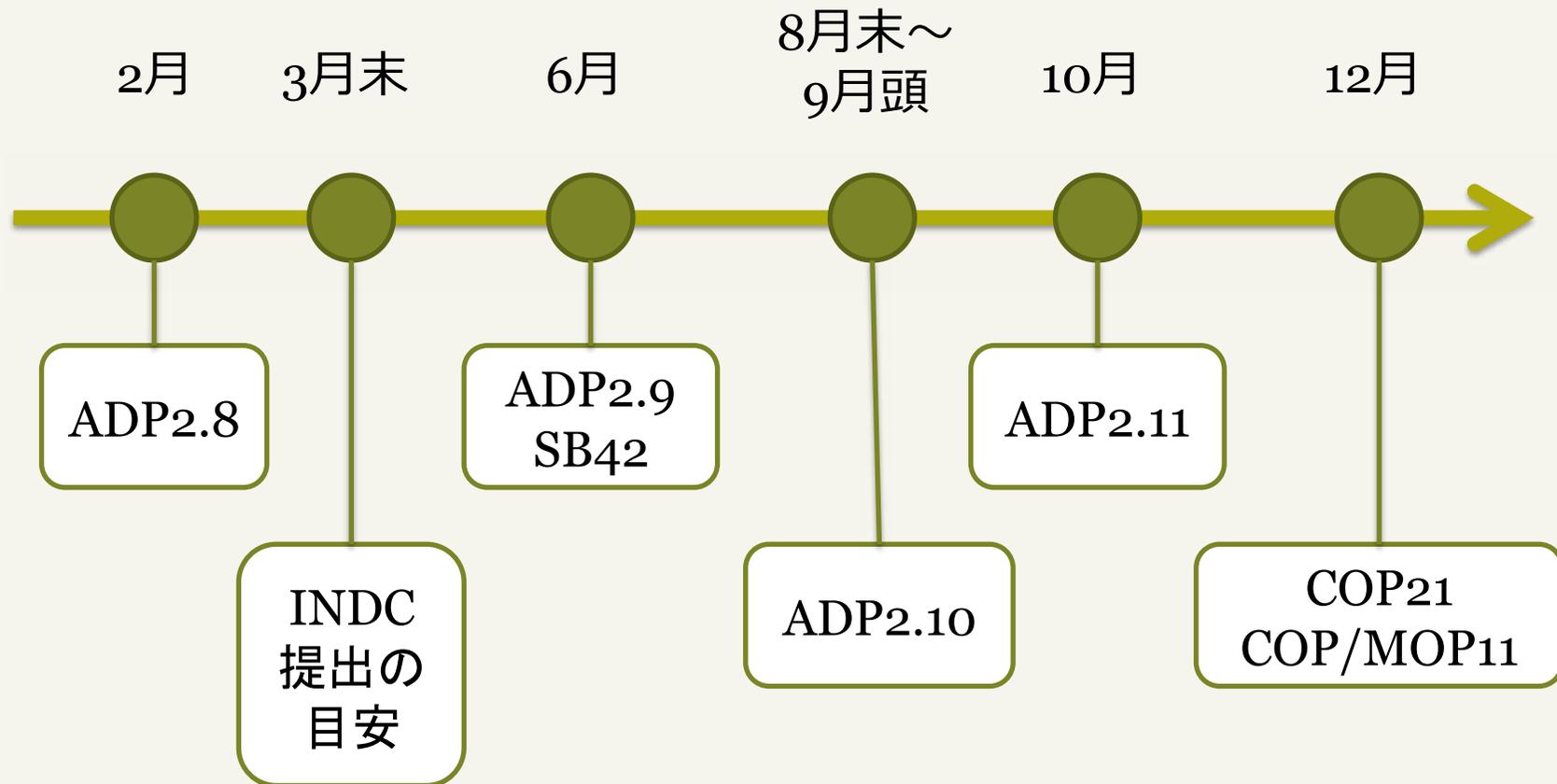
Contributions

2025/2030 に向けての目標

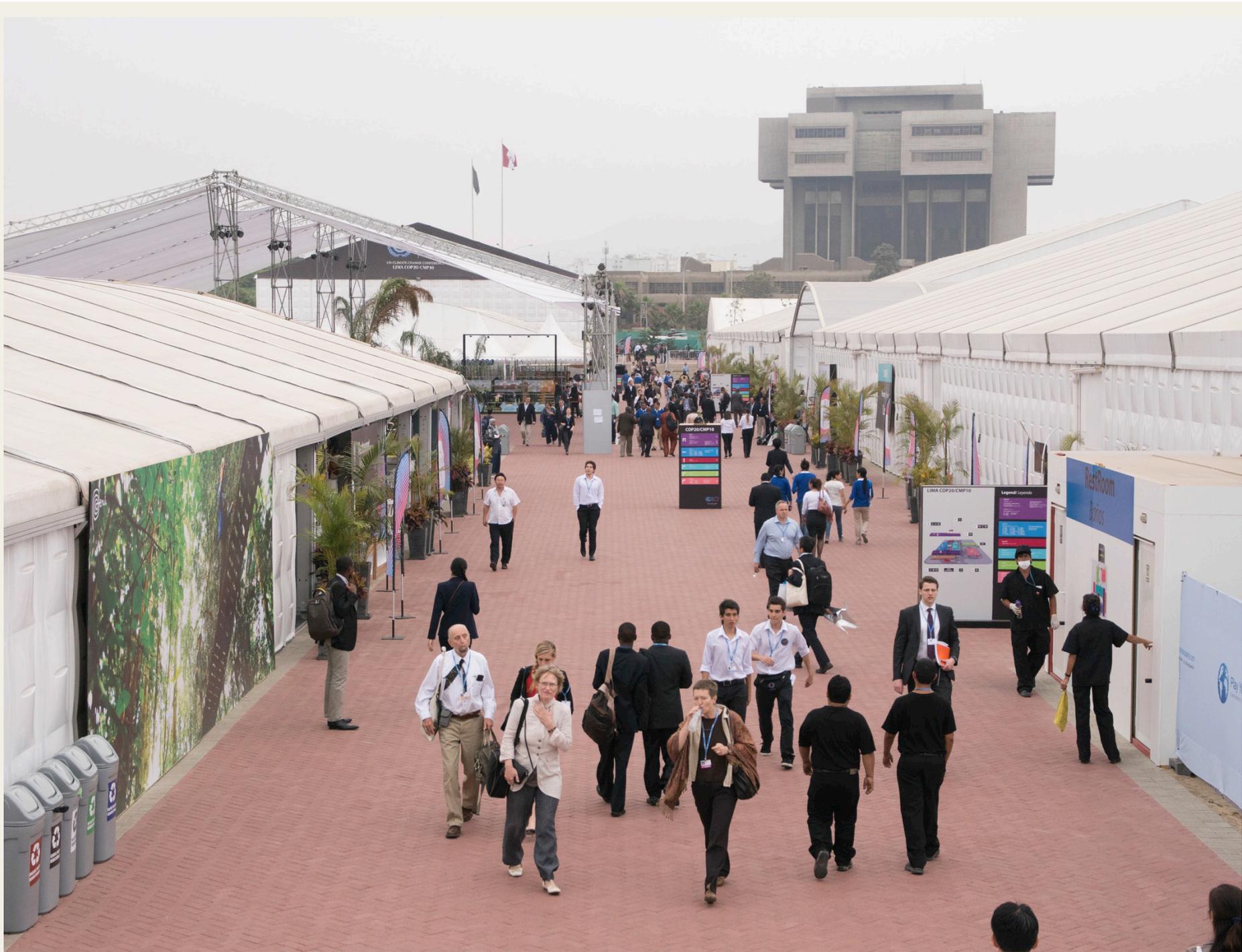
- 緩和（排出量削減）目標が中心
- 「適応」についても含めることが呼びかけられている



## 2015年の流れ











UN CLIMATE CHANGE CONFERENCE  
LIMA COP20 | CMP 10

JAPAN

JAPAN

JAPAN

#COP20





## COP20での3つの主要議題

---

### ■ 国別目標案（INDC）

- 国別目標案に何が盛り込まれるべきか
- 国別目標案が提示された後にどのようなことが行われるのか

### ■ 2015年合意の「要素」の検討

- 「交渉テキスト」の下書き

### ■ 2020年までの野心の引き上げ

- 専門家会合  
（Technical Expert Meetings  
→ Technical Examination Process）





Option 1: Be quantified or quantifiable, which can be aggregated, and which are transparent, comparable and/or verifiable.

Option 2: Be quantified or quantifiable and which shall consider a fair and equitable distribution of countries' participation in such a budget, and which are transparent, comparable and/or verifiable.

Option 3: Be quantified, which can be aggregated and which are comparable, measurable, reportable and verifiable for developed country Parties, with the type, scope, scale and coverage more ambitious than those undertaken under the Convention and its Kyoto Protocol during the pre-2020 period.

Be quantified, quantifiable or qualified in a measurable, reportable and verifiable manner for developing country Parties, based on their nationally appropriate mitigation actions (NAMAs) under the Bali Action Plan.

Option 4: Be accompanied by information aimed at enhancing the clarity.



## ADP2.8の論点

---

### ■ 前半：意見の着実な反映

- 掲載されていない意見はないかの確認

### ■ 後半：簡素化（Streamlining）

- 明らかに重なっている選択肢をまとめることなどが試みられた

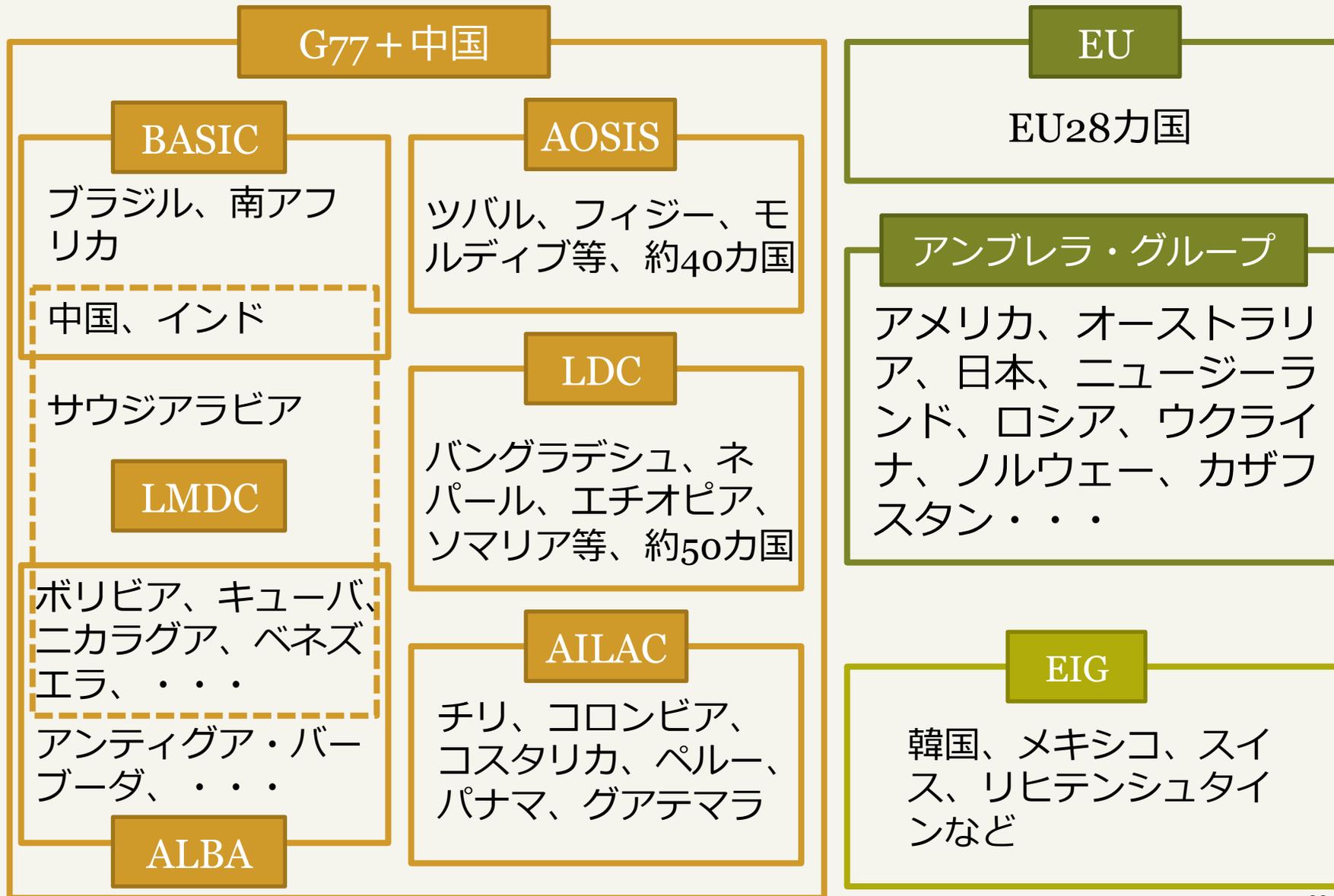
### ■ TEPの継続

- 「アイデア出し」から「実施」への移行が強調された



# 主要グループ

※この図は網羅的ではありません。また、一部、メンバー国の重なりを反映できておりません。





# 3. INDCについて

---

– どう見ていくのか



## INDCを見ていくに当たって

---

### ■ どこで見れるか？

- UNFCCC INDC Portal (公式サイト)  
[http://unfccc.int/focus/indc\\_portal/items/8766.php](http://unfccc.int/focus/indc_portal/items/8766.php)
- WRI CAIT Paris Contributions Map  
<http://cait.wri.org/indc/>

### ■ 判断の参考

- Climate Action Tracker  
<http://www.climateactiontracker.org>
- Climate Equity Reference Calculator  
<http://www.gdrights.org/calculator/>  
※ただし、国内・海外削減を合わせた数字が出る。

### ■ 日本語での一覧

- CAN-Japan  
<http://www.can-japan.org/activities/1761>
- WWFジャパン  
<http://www.wwf.or.jp/activities/2015/04/1258310.html>